

海の見える学校

令和5年9月21日／発行者：松本 直道（長崎市立畝刈小学校校長）

AZ教育 ～一人一人の子供を大切にする学校～



平和集会（9月5日実施）



始業式の様子



校長の話



児童代表の言葉



2学期の生活の話

平和な未来、ふるさと畝刈の未来

8月9日の登校日は中止になってしまいましたが、その代わりとして、9月4日～8日の1週間を「平和週間」として平和について考える期間としました。9月5日（火）には、8月9日に予定していた平和集会をやや短縮して計画しなおし、2年生の発表や各学年の平和宣言などを行いました。5年生の発表は、内容がくわしく時間が長くなるので、各学級で動画を視聴しました。

玄関前には、職員が工夫をこらして作成した平和や原子爆弾に関する資料を掲示し、平和週間のうちに見学し学習しました。

2学期のスタートして、落ち着いた雰囲気の中、平和に関する学びを行ったことは有意義であったと感じています。

【畝刈のみらいを語ろうかい】

本年度6月頃「畝刈小学校区地域コミュニティ連絡協議会」準備委員会が立ち上がりました。私もそのメンバーの一員として話合いに参加しています。

長崎市が主体となって進めているこの事業は「地域で決めて地域で実行する」を合言葉に、現在様々な林立する地域組織を一元化しています。地域に住む一人一人が主役として「地域をよりよくしていく」活動をすることが目的です。

その重要な一歩として9月23日（土・祝日）に「畝刈のみらいを語ろうかい」と銘打った住民参加のワークショップが開催されます。

準備委員会メンバーの一人の意見として「未来の畝刈を担う小中学生の意見を聞きたい」という声があり、畝刈小学校や三重中学校からも代表児童生徒が参加することになりました。ふるさとの未来を考え、よりよく変えていきたいという小学生らしい思いをしっかりと伝えてきてほしいと願っています。

「全員なかよし」をめざす2学期に

2学期を迎えるにあたり、私が子供たちに話したのは、あぜかり教育の「ぜ」「全員なかよし」です。

畝刈小学校には、様々な個性や家庭環境の子供がいます。見かけはわりと同じように見えても精神的な面や言葉遣いなど、子供たちそれぞれかなり違います。

私はこの夏休み、コロナが明けたこともあり久しぶりに27年前日本人学校に勤務したマレーシアに行きました。マレーシアという国は、多民族多文化社会で、マレー人中国人インド人という3つの異なる民族が、異なる宗教を信じ、異なる文化を持ちつつ共存共生しています。

子どもたちにも少し話したのですが、違った文化や宗教を持つ人々が一つの会社や学校で一緒に過ごすことは簡単ではありません。それでも、お互いの民族性や文化を尊重し、共存共生していくことは不可能でないことをマレーシアという国は実証しています。

マレーシアを訪れて感じたことは「多様性の中での寛容さ」です。これから国際化がどんどん進んでいく日本人にも必要となる感覚です。子供たちには、「みんな違ってみんないい」を合言葉に「全員なかよし」の畝刈小学校を作っていくと話しました。

「全員なかよし」を実現するにはどんな相手も差別せず大切にできる態度「リスペクト＝尊重」が大切です。私はこの「リスペクト」という言葉が好きです。最近ラグビーなどでよく使われるので、「尊重」よりは子供たちに伝わりやすいかなと思っています。

人それぞれが持つ個性や知性、体力や運動能力、容姿や信条など、「違い」をまずは認め、人として「リスペクト」すること、一見簡単そうでも大人でも難しいことかもしれません。

違いの中で時には対立も生まれます。マレーシアでも民族同士の対立を乗り越えて今があります。対立を乗り越えるためには「人を許す心＝寛容さ」が必要です。「問答無用の不寛容」「数の論理」ではなく、仮に一人の考えや立場であっても「寛容」「尊重」の態度で共に解決を目指していきます。その一つの方法が「対話」です。

「寛容さ」をお互いに持ちつつ、「対話」によって「折り合い」をつけていく、安易な「多数決」ではなく、対話を通して「第3の道」を探ること、その経験を子供たちに積ませていくことが大事だと思っています。「全員なかよし」は決して安易なスローガンではなく、かなりハードルの高い目標、志と考えます。

一方で、絶対に許されないこともあります。「暴力・暴言」「いじめ」「盗み」などです。これらは、ほぼ「犯罪」ですから許されることはありません。「寛容さ」は大切ですが、仲間が悪いことをしている時に「寛容」になることはおかしなことです。ですから子供たちには「自分の正しい心」を貫き大切にしないと話しました。

今「闇バイト」が社会的に問題になっていますが、たとえ仲間や先輩、上役からの命令であっても、自分が正しいと思うことを貫き、行動する。もし、仲間や所属する集団が間違っただけの時、勇気をもって「対話」によって、自分が思う正しい道を示すことが大切です。

相手を「リスペクト（尊重）」し「寛容」であること、一方で「自分の正しい心」を磨き、「対話」を通して折り合いをつけていくこと、「みんな違ってみんないい」そんな柔らかで強い心を持つ畝刈っ子になってほしいと願っています。

2学期は各学年ともに様々な学習や行事などがあります。それらを通して、「健やかな」心を育てていく2学期にしていきたいと思っています。